

# 教養教育「地域連携参加型学習」報告

## 名古屋は外国人にとって優しいまち?

### 情報環境デザイン領域 水野みか子

本稿は、2018年度に教養教育「地域連携参加型学習」で行ったグループ学習のうち、芸術工学研究科の教員が携わった課題「名古屋は外国人にとって優しいまち?」について、実施スケジュール、連携組織との関わり、受講生による気づき・発見を中心に報告する。

キーワード：地域連携・参加型学習・まちなかでの学び

#### 1. はじめに

2014年度に開始された教養教育「地域連携参加型学習」は、名古屋市立大学が名古屋市を含む諸地域との連携を強化するため、大学生が地域に赴いて体験学習を行って学習成果を学内に持ち帰る、という理念に基づいて継続されている。現在は人間文化研究科、経済学研究科、芸術工学研究科という三つの部局から各1~2名程度の教員が参加し、該当三学部の学生50~70名程度が受講する授業である。

受講生は、最初の授業で各教員のテーマと学習プランを聞き、各自いずれかのグループを希望する。連携先との関連で各グループのキャパシティに限界があるため、受講生は第二希望グループに移ることもしばしばである。

教員側からの学習メニュー提供と受講生の希望に基づいてグループ分けされるため、各グループには学部をまたいだ学生が所属する。ひとつのテーマに向き合う姿勢には、学部間の違いが顕著であり、そのため、学生間に自主的交流と発見の機会が生まれている。

2014年度より昨年度まで4年間筆者が担当したテーマは、名古屋市文化振興事業団の協力を得て「地域の文化施設と文化活動について学ぶ」というものであった。名古屋市文化振興事業団の積極的な協力が得られ、職員の方が独自に工夫したワークショップや文化施設での体験(ex. 劇

場での照明器具操作、能楽堂で舞台上を歩く)を通して、受講生は、学内では得られない、いわゆる「現場」について学習することができた。

2018年度には、あらたに、名古屋観光コンベンションビューローに協力を仰ぎ、外国人にとって名古屋は観光しやすいか、あるいは、住みやすいか、について学習し考察を促した。担当は、ネダ・フィルフォヴァ先生と水野である。

以下では、まず、授業スケジュールや学習内容の枠組み、受講学生の最終成果(日本語)等について水野が報告する。その後、フィルフォヴァ先生による報告 <Walking in Someone Else's Shoes> において、受講生の英語レポートを踏まえて名古屋の公共交通機関の問題等が報告される。

#### 2. 「名古屋は外国人にとって優しいまち?」をテーマとする地域連携参加型学習

##### 2-1. 実施スケジュール

初回にグループ分けと課題説明を行い、2回目には学内で名古屋市の国際交流に関する取り組みや市内の観光地図などのグループ学習を行った。3回目に、名古屋観光コンベンションビューローを訪問し、観光部長の中村氏にお話しいただき、コンベンションビューローの役割や今後の企画について学習した。それに続き、伏見~栄の徒歩調

査、栄駅の問題点発見、円頓寺商店街見学、名古屋駅の問題点発見、有松の町歩き、学生のみによる自主的な大須見学を行った。なお、それぞれの学外学習授業は2コマ分の時間枠をとって実施されている。

有松については、名古屋観光コンベンションビューロー観光部長の中村氏に日本語ガイドボランティアの方を紹介していただいたが、その他の場所や見学ルートと見学の視点については、受講生と教員の間で議論して決められた。

## 2-2. 連携組織との関わり

名古屋観光コンベンションビューローへのアプローチとして、名古屋市立大学国際交流センター長の横山清子教授を通して観光部長中村氏をご紹介いただいた。

中村部長は、名古屋観光コンベンションビューローの三つの組織（国内観光、国際観光グループ、おもてなしグループ）とその役割、現状の課題と将来計画について資料を駆使して説明された。国際観光グループの現在の重点項目は、海外現地 PR 活動、旅行会社・メディアの受け入れ支援、外国人旅行者の受入整備の三点とのことであり、この第三点は、当該授業の学習目的に合致するものであった。

具体的には、名古屋観光資源の柱であるショッピングとグルメをテーマにしたガイドマップの作成・配布、言語トラブルに対処するための商業施設やタクシー会社向け 24h 対応の電話通訳サービスが実施されている。また、循環運行バスである「メーグル号」は、名古屋駅を出発点とし、約 19 キロを約 90 分かけて、市内観光名所を巡っている。メーグル号一日乗り放題の「1day チケット」は、外国人観光客には人気が高いとのことである。

中村部長によるコンパクトで濃厚なレクチャーは受講生に強い印象を与え、学生の自主的観光ルート作成にもおおいに役立ったと思われる。

## 2-3. 受講生による気づき・発見

### 2-3 -1. 駅構内について

受講生は、各見学場所について発見したことをレポートとして提出した。駅構内の案内サイン、高齢者にも優しいエレベーターの配置、乗り換え案内表示など、交通に関わる問題点は複数の場所に関して指摘された。

名古屋駅と栄駅では、英語案内の実地見聞、駅員やインフォメーションセンターに英語で尋ねる、などの方法によって、外国人にとっての利便性を考察した。



写真1 栄駅での乗り換え案内



写真2 英語表示を見ながら新幹線改札口から市バス乗り場へ行く試み

### 2-3-2. 円頓寺商店街

観光や賑わいの魅力に関しては、円頓寺に受講生の強い関心が寄せられた。受講生山口は、名古屋駅から徒歩 15 分のところに位置し「名古屋駅から複雑な地下鉄線や市バスに乗らなくても行ける観光地」<sup>1</sup>として円頓寺を推奨する。

<sup>1</sup> 受講生山口奈々のレポート。

名古屋駅と名古屋城の間にあるので、ウォーキング観光に好適で、さらに、日本的な雰囲気が豊かで、「昔ながらの建物の良さを残しつつも、モダンな雰囲気のある小綺麗な建物」<sup>2</sup>を楽しむことができる。さらに、「気軽に食べられるランチ、お喋りできる喫茶店から、高級な和食店やフランス料理店など、幅広い選択肢がある。」<sup>3</sup>という若者らしい指摘もあった。



写真3 円頓寺のいいところ：「英語の案内が多い」

受講生が選んだ「円頓寺 三つのおすすめスポット」は、「老舗喫茶を改修した民宿」なごのや“、「歌舞伎カフェ “ナゴヤ座“、「古民家ギャラリー”Esplanade Gallery”」だった。

### 2-3-3. 大須の魅力

受講生田島は、大須に関する下記のような独自の推薦文を作成した。

「大須商店街は秋葉原や日本橋のようなオタク街の雰囲気を残しつつ、昔ながらの商店や激安ショップ、名古屋めしを含む飲食店、激安の古着店などを実にさまざまな店舗を抱え、老若男女が行き交う活気あふれた商店街として栄えています。激安グルメは大人気で行列の出来る唐揚げ店、大判焼きやたい焼き、クロワッサンたい焼き、クレープ、ケバブ揚げまんじゅうがぼうにさきった

揚げまん棒、みたらし団子など食べ歩きにピッタリなフードが目白押しです。」<sup>4</sup>

ここでも食が強調されているが、名古屋駅から大須への移動過程に名古屋市美術館・科学館があることもこのルートの魅力である。

### 2-3-4. 三時間おすすめ名古屋観光

4年生の受講生石津は、名古屋駅から3時間で往復できる「観光おすすめルート」に円頓寺と大須を選んだ理由を下記のように書いている。

「中部国際空港から名古屋駅にたどり着いた外国人観光客が短時間で回ることができ、英語案内が少なく利用しにくい地下鉄の乗り換えやバスを利用しないコースなので非常に気軽に楽しむことができます。また名古屋の魅力にも触れてもらえるように、江戸時代からの古い建築様式を残す円頓寺商店街や、現代科学からファッショングルメなど多彩な魅力を持つ大須・伏見周辺を中心にコース設定しました。」<sup>5</sup>

### 3. 地域連携参加型学習における学びの形態

今回の地域連携参加型学習では、名古屋の町歩きによって問題点を発見し、学生自らが「おすすめ観光ルート」を考え、交通アクセスと魅力をアピールすることを課題とした。旅行ガイドブックを読み慣れている受講生にとって、最終プレゼンテーション具体的イメージをつかむのは容易だった。発表会のための資料集めや写真撮影にも学生は熱心であり、総じて、この授業では学びの方法を学生の自主性に委ねることができたと言える。

<sup>2</sup> 同上.

<sup>3</sup> 同上.

<sup>4</sup> 受講生田島大地のレポート.

<sup>5</sup> 受講生石津拳のレポート.